

首里北方の景勝地

久場川を巡る

久場川は、首里城の北方を東西に走る斜面に位置します。儀保の西森から虎瀬山、さらに東の御殿山へと続く丘陵は、首里の北側を巡る自然の城壁として、多くの文人が詩歌を詠んだ場所です。



▲虎瀬公園からの首里城への眺め

王家遊覧の地 虎瀬の山と久場川御殿

虎瀬山は、首里城の北北東に位置する標高約百三〇mの琉球石灰岩の丘陵で、頂上の岩山が虎の頭に見えたことから「虎頭山」「虎山」とも記されます。遠くに海がみえる景勝の地として知られています。また、虎瀬山の景観は、首里八景のひとつとして「虎山松濤」と謳われ、松や月を題材にした詩歌が多く残されています。

「久場川御殿」と「下久場川御殿」と



▲佐藤惣之助の碑文

呼ばれるふたつの別荘が建てられていました。久場川御殿は、十七世紀初めに尚貞王の世継ぎの王子だった尚純が創建し、春夏秋冬の時節とともに民と楽しみを同じくしたいということで「同楽園」と命名されていました。同楽園には琉球の学者・文人である蔡文薄が詠んだ「同楽苑八景」という八つの漢詩が残されており、邸内の美しい景色が詠まれています。

延賢橋

江芷汀蘭映水青 江芷汀蘭水に映じて青し
風飄香氣到前庭 風は香氣を飄して前庭に到る
曾傳東閣招賢地 曾て伝う東閣は招賢の地なりと
可勝園橋聚徳星 勝るべけんや園橋徳星を聚めん
出典「琉球漢詩選」(鳥尻勝太郎・上里賢一注釈)

これら両別邸は廃藩置県後に廃され、沖繩戦によって松林も消失してしまいました。久場川の丘陵地も戦後は宅地化が進みましたが、頂上部は虎瀬公園として整備されました。

また、公園内には昭和の歌謡史で有名な佐藤惣之助の碑文が建てられています。この碑文は一九五九(昭和三四)年に琉球大学敷地(現在の首里城)に建てられていましたが、首里城の復元に伴い、一九九二年に虎瀬公園内に移設されたものです。「しづかさよ 虚しさよ この首里の都の宵のいろを 誰



▲久場川カー

久場川井戸

村名に由来する湧泉。琉球王国時代には首里と西原間切の境、虎岩山稜の縁下に湧く泉だった。久手堅憲夫「首里の地名」によると、「クバ」とは「側や縁」をさす地相・地形語「コバ」に対応し、地形的には虎岩山の「縁下に湧く泉」で、行政地理的には首里の「際に湧く泉」という意味になるそうです。

現在は泉の水は涸れています。地域住民の手によって祠がまつられています。

平等所跡

琉球王国時代の裁判や警察の役割を担当した役所です。「南島風土記」によると首里・那覇・泊の掃除、ムラガー(共同井戸)の管理なども行っていたそうです。「首里古地図」によると久場川村の北端の平良川(現安謝川)沿いの太平橋(平良橋)の東側に位置しています。琉球ではこの平等所で役人たちの取り調べが行われ、その結果は案文として首里城北殿にある評定所へ提出されて判決が決定しました。とくに死刑や流刑の場合は国王の決済をうけて執行されたそうです。

廃藩置県後は平等所は廃止され、その跡地に「久場川サガイの芝居小屋」ができ、首里はもろろ近くの村々からも多くの人々が芝居見物に集まったとされ、あたりは大変にぎわっていたそうです。現在は住宅地となっています。



▲平等所跡



首里古地図にみえる久場川村

に見せやう、眺めさせやう」と、首里城から首里のまちの眺めが詠まれています。

首里の風景は、時代を超えて多くの文化人を魅了したことでしょう。

※「同楽園八景」などの描写から後に造営された下久場川御殿(虎頭之久場川殿)を同楽苑とする説もあります。

人名解説

○蔡文薄(一六七―一七四五)
祝嶺親方天章・号如亭。堂号を四本堂と称し、学者・文人として有名。康熙二六(一六八七)年に北京国子監へ留学。著作に「四本堂詩文集」「四本堂家礼」がある。

○佐藤惣之助(一九八〇―一九四二)
日本の詩人、作詞家。神奈川県横浜市出身。代表作に「上海だより」「赤城の子守歌」「阪神タイガースの歌(六甲風)」がある。沖繩には一九二二(大正十一)年に訪れ、「琉球諸嶋風物詩集」を記している。

那覇市役所首里支所新庁舎

二〇二〇年十二月六日(月)から久場川町の庁舎で業務開始!!



新首里支所庁舎は、駐車場に面した二階部分に首里支所の「証明書申請・届書コーナー」を配置、一階には約一〇〇人収容できる会議室(コミュニケーション施設)が設けられ、協働のまちづくり役に役立つ施設となっています。駐車スペースは、身体障害者用二台を含め、二〇台の駐車が可能。屋外には太陽光発電を設置、トイレは雨水を利用するなど環境に配慮。建物の外観は、沖繩の伝統的な赤瓦葺きの屋根と深いひさし(アマハジ)が特徴的で、地域に馴染み親しまれています。

第46回「琉球王朝祭り首里」の伝統工芸品展・物産展について

琉球王朝祭り首里(旧首里文化祭)の「人間国宝・伝統工芸品展・物産展」を首里公民館大ホールで十一月三日文化の日毎年展示してから五年目となりました。人間国宝の宮平初子さんの首里の織物・玉那覇有公氏の紅型・梶無形文化財保持者の城間栄順氏の紅型・ルバース吟子さんの首里の織物・前田孝允氏の漆器・金細工またよしさんのジーフアー・安慶名氏の琉球紙・那覇伝統織物事業「協」の首里織・長山びんがたの展示・体験学習、首里高校の染色織物・首里琉染のサンゴ染め・泡盛等展示をしています。